

わたしたち静岡の暮らしから、未来を変える
— しずおか気候市民会議 提言 —

2026年6月
しずおか気候市民会議

わたしたち静岡の暮らしから、未来を変える
— しずおか気候市民会議 提言 —
2026年6月

主催：しずおか気候市民会議行委員会
一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
編集：株式会社中井俊裕カーボンニュートラル研究所
(担当：中井 梨紗子)

しずおか気候市民会議シンポジウムからの提言

はじめに

わたしたちは、専門家からの話題提供や対話、そして家庭での実践を通じて、気候変動問題の深刻さと、わたしたちの暮らしが環境に与える影響の大きさを学びました。

同時に、気候変動対策は「我慢」だけで進めるものではなく、健康や暮らしやすさ、地域の魅力の向上にもつながりうることを実感しました。実際に、自分たちの生活を見つめ直し、身近な行動を試してみる中で、参加前よりも問題意識が深まり、行動や意識にも少しずつ変化が生まれました。一方で、目標の達成は市民一人ひとりの努力だけで実現できるものではありません。移動、住まい、買い物、働き方など、日々の暮らしの条件そのものに関わる課題も多く、行政や事業者の後押し、地域全体での協力が不可欠です。

本提言は、静岡市で暮らす生活者、消費者、有権者として、どのような取組が必要であり、どのような支えや仕組みが求められるのか、話し合った結果をまとめたものです。わたしたち自身に生まれた気づきや変化が、この提言に触れた人にも広がっていくことを願っています。そして、行政、事業者、市民がそれぞれの立場で力を出し合い、脱炭素とより良い暮らしの両立に向けた一歩がここ静岡市から生まれ、その積み重ねがやがて広く社会へとつながっていくことを信じています。

対話を通じて見えてきた方向性と課題

全3回の対話を通じて、気候変動対策を進めるうえで大切な視点や、乗り越えるべき共通の課題が見えてきました。ここでは、個別の取組に共通する大きな方向性と課題を整理しました。

1. わたしたち一人ひとりが、生活者として、消費者として、有権者として、自ら実践し、働きかけていくことが社会に大きな変化をもたらす原動力になる。
2. 現状として、気候変動問題の深刻さや取組の必要性は、多くの市民にとってジブンゴトとして認識されておらず、行政による取組も十分に認知されていない。目標達成に向けて、伝え方や対話のあり方を工夫していく必要がある。
3. 取組の第一歩として、地域全体で問題意識を共有すること、身近な取組を通じて自然と気候変動対策の必要性に気づき、意識変革につなげていく仕掛けが必要。
4. 取組を妨げる壁を丁寧に見極め、それを乗り越えるための対策につなげていくことが重要。
5. 生活実感に根ざした市民の感想や意見は、今後の取組や支援策を考えていくうえで、有益な手がかりになる。

👉くわしくは次のページへ

静岡の暮らしの中で重点的に進めたい取組

「静岡の暮らしの中で、今後重点的に進める価値が高い」と思う4つの取り組みを検討しました。



自動車の利用を減らす



野菜の旬消地消を心がける



環境に配慮した製品を選ぶ



リデュース、リユース、リペア、リサイクルを心がける

これらは「我慢ではなく別の満足につながる効果」や「困りごとの解決が結果的に温暖化対策になる」という**思わぬ効果**を持ちます。

今回の4つの項目に限らず、そこで得られた視点や考え方は他の取り組みにも応用可能です。

例えば、旬消地消の「近くで作られたものを選ぶ」という発想は、肉を減らして地元の魚を選ぶことや、地元の製品や環境に配慮した製品を選ぶことにも繋がっています。

わたしたちの目指す暮らし

簡単な修理を学ぶ、
地域で教え合う

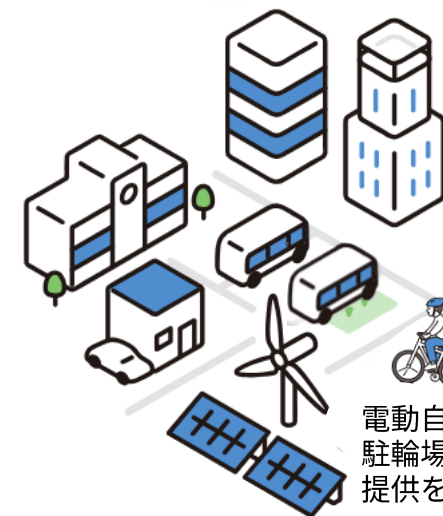


「中古でよかった」
体験を共有する



学校などで「環境に良い製品」を
学ぶ機会をつくり、市や学校として
参考にしやすい製品情報を示す

リモートワーク、オンライン診療、
移動スーパー、物流改革などで
「行かなくても済む」「近くで済む」
仕組みを広げる



電動自転車レンタルや
小型モビリティ、
バスの本数や路線、
返却スポットなどを充実させる

公共交通を使う楽しさや
文化を取り戻し、
「車以外もいい」と感じ
られる空気を育てる

電動自転車への補助や
駐輪場整備、学ぶ機会の
提供を進める

SNS、回覧板、地域の
つながりの中で、
良さを共有する



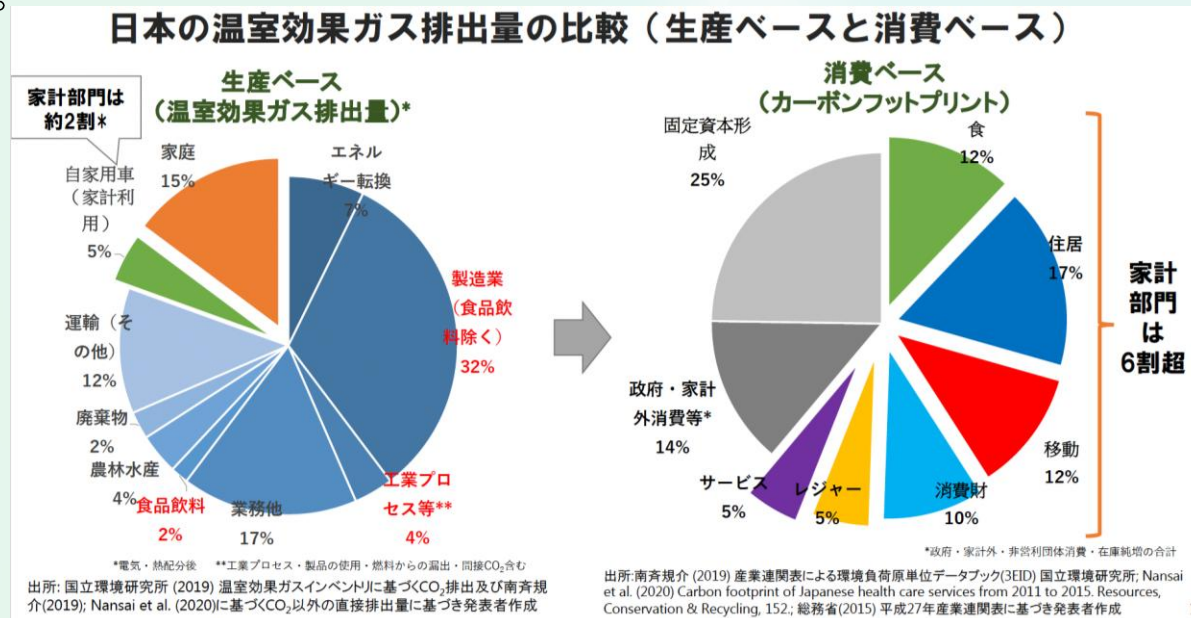
「地元産を選ぶことが気候変動対策
にもつながる」ことを学び、食育や
イベントを通じて価値を共有

対話を通じて見えてきた方向性と課題



わたしたち一人ひとりが、生活者として、消費者として、有権者として、自ら実践し、働きかけていくことが社会に大きな変化をもたらす原動力になる。

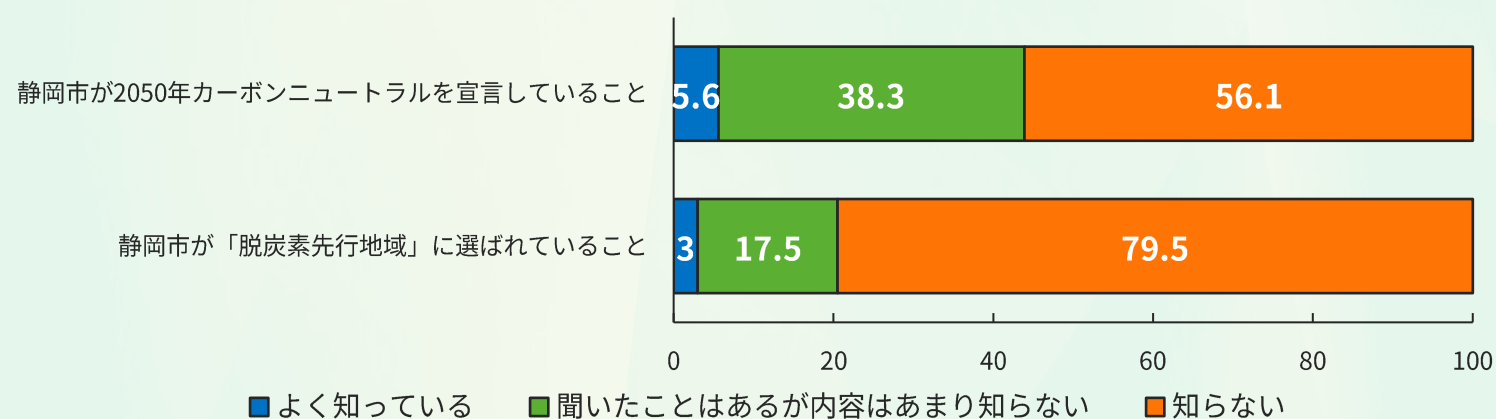
家計部門から排出は全体の約2割ですが、私たちの消費に関わるモノやサービスの排出は6割以上を占めています。だからこそ、生活者・消費者・有権者としての行動が、行政や企業を動かし、社会を変える力になります。



現状として、気候変動問題の深刻さや取組の必要性は、多くの市民にとってジブンゴトとして認識されておらず、行政による取組も十分に認知されていない。目標達成に向けて、伝え方や対話のあり方を工夫していく必要がある。

静岡市は先進的に脱炭素へ取り組んできた一方で、**市民の認知は十分ではありません**。目標達成には、市民が気候変動を自分事として理解し、行政との対話を深められる伝え方が求められます。

静岡市の気候変動対策に関する認知状況(n=337)



全3回の対話を通じて、気候変動対策を進めるうえで大切な視点や、乗り越えるべき共通の課題が見えてきました。ここでは、個別の取組に共通する大きな方向性と課題を整理しました。



取組の第一歩として、地域全体で問題意識を共有すること、身近な取組を通じて自然と気候変動対策の必要性に気づき、意識変革につなげていく仕掛けが必要

取り組みの第一歩は、気候変動の深刻さと対策の必要性を地域全体で共有することにあります。ただし、気候変動対策は暮らしや価値観と深く結びつくため、単に「正しい行動」を押しつけても広がりません。アンケートや家庭実験でも、声かけやSNS発信に難しさを感じる市民が多く、伝え方によっては「正義の押しつけ」と受け取られ、反発を招くおそれが見られました。だからこそ、身近な行動を入口に、自然と必要性に気づき、意識や行動の変化につながる仕掛けが求められます。

取組を妨げる壁を丁寧に見極め、それを乗り越えるための対策につなげていくことが重要

- 温室効果ガスを減らすために、市民ができることはたくさんあります。市民参加者は、声かけやSNSでの発信を含む15の取組を、各家庭で1週間試しました。やってみると、必要性を知ることによって続けやすくなったり、思わぬ効果があって驚く一方で、ためらいや続けにくさも実感しました。
- 行動を広げたり続けたりするには、様々な壁があります。良い取り組みでも、別の行動に影響したり、特定の人に負担が偏ることもあります。だからこそ、誰にどんなしわ寄せが出るのか、個人でできることの限界はどこかを見極めながら、全体として無理なく続けられる環境づくりが重要です。

生活実感に根ざした市民の感想や意見は、今後の取組や支援策を考えていくうえで、有益な手がかりになる。

家庭実験の15の取組について、一般市民337人と参加者の実施率を比べると、参加者はもともと関心が高く、実施率も高かった一方で、家庭実験を通じて大きく伸びた取組もあれば、あまり変わらないもの、むしろ下がったものもありました。これは、取組ごとの特徴や、やってみて初めて分かる難しさに関連しています。市民会議では、実践から見えた壁や気づきを整理し、今後の検討に生かせる視点としてまとめました。

	(1) 自動車の利用を減らす	(2) エコドライブを心がける	(3) 電気自動車などに乗り換える	(4) 長距離移動手段を見直す	(5) 食品の過剰摂取を減らす
回答者平均	32.0%	52.5%	28.1%	31.2%	52.2%
参加者平均	53.8%	54.2%	41.2%	63.3%	56.3%
家庭実験結果	60.9%	75.0%	38.5%	60.0%	62.5%
	(6) 肉の摂取量を減らす	(7) 野菜の旬消・地消	(8) 廃棄食品を減らす	(9) 喫煙や飲酒を控える	(10) 環境に配慮した製品を選ぶ
回答者平均	27.3%	61.0%	72.5%	65.3%	43.8%
参加者平均	31.3%	72.5%	81.3%	66.3%	46.1%
家庭実験結果	44.6%	62.5%	71.9%	63.3%	38.6%
	(11) 4Rを心がける	(12) 家庭で節電	(13) 家庭のエネルギー源を再エネ由来に	(14) 声かけやSNSなどでの発信	(15) 移動そのものを減らし、地域で楽しむ
回答者平均	51.9%	54.5%	18.4%	8.7%	-
参加者平均	48.8%	62.5%	35.5%	22.2%	-
家庭実験結果	65.7%	60.9%	36.1%	28.3%	60.7%

* 青枠は実施率が大幅に改善したもの、オレンジは実施率が下がったもの。

静岡の暮らしの中で重点的に進めたい取組

静岡の暮らしの中で、今後重点的に進める価値が高いと考えられる取組について、実践を妨げる壁と、それを乗り越えるためのアイデアをまとめました。

自動車の利用を減らす



車以外の移動の魅力を伝えるとともに、車がなくても暮らしや移動が成り立つ環境を整えることが必要

1 車が当たり前 ▶ 車以外も選べる

2 車を減らしたくても、暮らしが許さない
▶ 車がなくても暮らしやすい

3 車の代わりがない
▶ 代わりの移動手段が使える

環境に配慮した製品を選ぶ



信頼できる情報、価格に見合う価値の見える化、自分ごととして選びたくなる後押しが必要

1 本当に環境に良いか分からない
▶ 信頼できる情報で比べて選べる

2 高いだけに見える
▶ 長く見れば納得できる選択

3 自分の選択にはなりにくい
▶ 自分ごととして選びたくなる



野菜の旬消・地消を心がける

良さを分かりやすく伝え、身近に出会える場を増やし、価格だけではない価値を感じられる仕組みを整えることが必要

1 良さはあるはずだが、よく分からない
▶ 知って、出会って、選べる

2 良いと思っても高くて選べない
▶ 少し背中を押せば選べる

3 知っていても動かない
▶ 地域の誇りとして広がる



リデュース、リユース、リペア、リサイクルを心がける



知識を増やすだけでなく、身近に実践できる場を整え、直して使う・譲って使うことに魅力を感じられる社会に変えていくことが必要

1 直したいけれど、直せない
▶ 直して使うのが当たり前

2 どう捨てるか分からない
▶ 迷わず循環に回せる

3 中古はちょっと嫌だ
▶ 中古でも十分いい

次の一歩に向けて

市民から始まる一歩を、社会を変える次の一歩へ。



**今回の提言と実践は、
共通する課題を抱えた地域が、
未来への一歩を考える手がかりになる**



**実践には、市民だけでなく、
行政や自治体との協働も不可欠**



- ・ しずおか気候市民会議は、市民が学び合い、議論し、提案することで、静岡市の未来に向けた現実的な道筋をともにつくる試みでした。行政や事業者任せにせず、自分たちにできることと、その壁をどう越えるかを最後まで話し合ってきました。
- ・ その中で見えてきたのは、**市民の行動が行政や事業者を動かし、社会を変える力を持っている**ということです。ただ、示した取組だけでは目標達成は難しく、住宅・エネルギー・交通など、より大きな削減につながる分野へ広げていく必要があります。
- ・ 世界はまだ1.5℃目標に届いておらず、だからこそ都市には先行して実効性ある取組を広げる役割があります。静岡市の課題は多くの都市と共通しており、ここでの提言は他地域にとっても一歩を考える手がかりになりえます。今回の提言は一地域の市民による小さな試みですが、学び、話し合い、試した私たち自身に確かな変化が生まれたことに大きな意味があります。
- ・ これは完成形ではなく、静岡市と世界の未来に向けた出発点です。**市民には暮らしの中でできる一歩を、静岡市にはロードマップづくりなど行動を後押しする仕組みを、事業者には商品・サービス・働き方を通じた変化の支え**を期待しています。そうした一歩一歩が、静岡市から社会全体へ広がっていくことを願っています。

第1回 気候変動の理解と行動の出発点

第1回目 気候変動の理解と行動の出発点

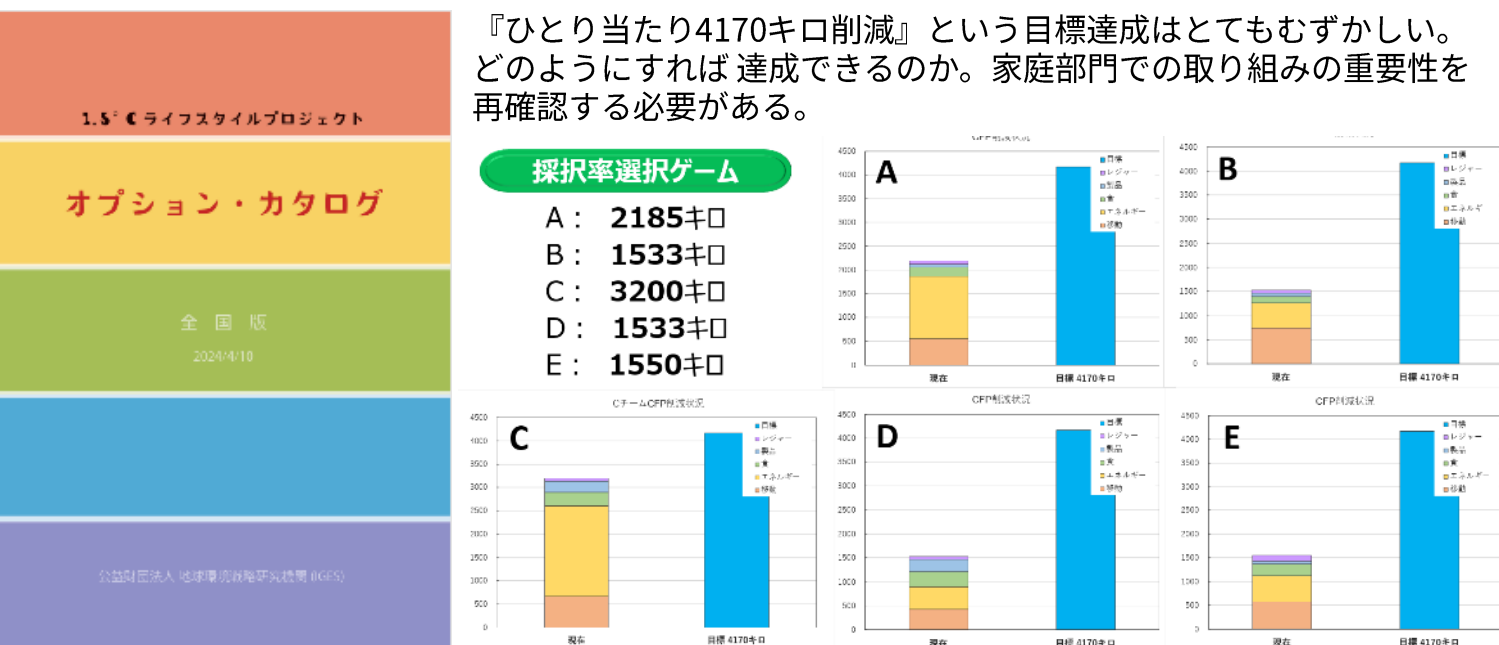
1. 気候変動の理解

江守 正多さん(東京大学未来ビジョン研究センター)、西角 果朋さん(静岡市)から気候変動の知識、静岡市としての取り組みを紹介し、気候変動の現状を理解しました。

2. 選択率採択ゲーム

静岡市の削減目標である4,170kg/年に向けて「採択率選択ゲーム」を行いました。

気候変動対策の選択肢をまとめたオプション・カタログへの理解を深めたうえで、どのアクションを現在から何割の人が新たに組み込んだら、静岡市の目標に到達するのか？各グループで検討しました。



参加者から多くの質問もよせられました

Q：海も近く、盆地でもない静岡がなぜ第2位の暑さになるの？

A：静岡市の暑さは、南西風が高草山などを越える際に熱風に変わる「フェーン現象」と、強い日射、そして市街地の蓄熱が要因として考えられています。面白いのは、この「強い日差し」と「蓄熱」を、静岡の先人たちは古くから味方にしてきたことです。久能の「石垣いちご」はまさにその具体例で、石垣が反射した太陽光を吸収・蓄熱する性質を利用した伝統農法です。この温暖な気候が、今は命の危険も感じられる「猛暑」へと姿を変えつつあります。静岡市の誇る農業文化を守るためにも、この「熱」をどうコントロールするかが、今後鍵になってきます。

Q：65万人の静岡市民に何ができるの？世界中が同じ目標で動かなければ変わらないのでは？

A：パリ協定締結国は目標を掲げていても、世界全体ではなお1.5℃目標に届かず、対策は十分とは言えません。だからこそ、都市は先に試し、実効性ある取組を社会に広げる重要な場になります。しずおか気候市民会議は、専門家や行政だけでなく、市民自身が学び合い、議論し、提案することで、静岡市の未来に向けた現実的で納得感のある道筋を共につくる試みです。実際、静岡市と人口規模の近いコペンハーゲンや、より小規模なフライブルクも、都市発の実践を積み重ねることで国際的な先進例となりました。65万人の静岡市民の声と行動も、小さくなく、他地域への波及を生む出発点になり得ます。

Q：気候変動問題に関心のない人たち、とくに若い人たちに対してどのように教育したり、アプローチしていけば良いの？

A：「正しさ」を押しつけることにもなりかねない教育だけではなく、「自分たちの未来の選択肢」を広げることにつながるような、対話の機会を増やすのはいかがでしょうか。環境「問題」として大きく、真面目に捉えるだけではなく、ファッションや食などの日常、彼らの将来のキャリアへのつながりなどに関連付けた議論や行動を肯定するなど、前向きで楽しいコミュニティを一緒に作っていく、そんなアプローチも効果的ではないかと考えます。

Q：深刻な影響を受ける「原因に責任の無い人たち」の暮らしがどうなっているの？また、それらの人々は原因を作っている先進国のことをどう思っているの？

A：具体的な例を出すと、太平洋の島嶼国などでは、海面上昇により居住地が水没し、より内陸の土地へ移住を余儀なくされる事態がすでに現実となっています。頻発する洪水や干ばつは、彼らの食料や健康、さらには固有の文化をも脅かしています。こうした地域の人々は、先進国に対し、「温室効果ガスを排出してきた責任に見合う支援」を強く求めています。彼らにとって気候変動は、今まさに存在する「生存権の侵害」です。この歴史的な責任の差に伴う「不公平」にどう対処するかが、国際社会の大きな焦点となっています。



第2回 行動の壁と効果の共有

第2回目 行動の壁と効果の共有

1. 家庭実験結果の共有

第1回目から2回目の間に、参加者には家庭実験として、右の15項目に取り組みました。

取り組んだ結果、簡単にできたこと、難しかったこと(=行動の壁)、思わぬ効果をチームごと共有しました。その後、家庭実験で実施した15項目を①思わぬ効果と②必要な支援の大小の2軸を使って整理するとともに、「静岡の暮らしの中で、今後重点的に進める価値が高い」と思う取り組み項目に投票し、グループで考えてみたい項目を選定しました。

2.課題と解決の方向性の検討

各グループで選択した代表的市民の生活や思いを具体的に想像してもらい、「この人に積極的に取り組んでもらうにはどうしたらよいか」を検討しました。取り組む際の「壁」を①環境・インフラ、②時間・手間、③情報④心理・習慣、⑤制度・権限、⑥費用といった様々な側面から考えつつ、壁を越えてやってみよう！と思えるための「後押し」や、期待できる「思わぬ効果」などについて話し合いました。

A：リデュース、リユース、リペア、リサイクルを心がける

B：野菜の旬消地消を心がける

C：環境に配慮した製品を選ぶ

D：自動車の利用を減らす(車を使う移動を減らす)

代表的市民像

ID 7-1

篠原 美琴

38歳 | 共働き | 奥区

基本属性

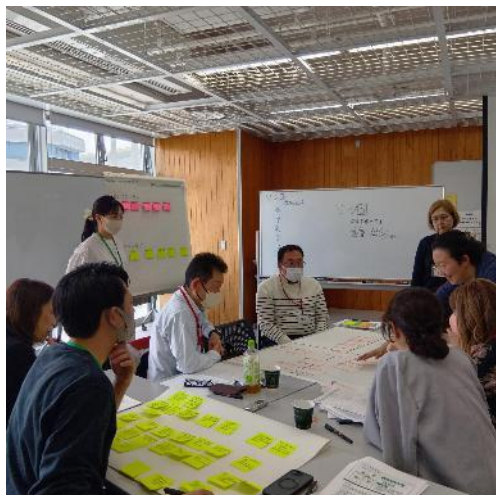
38歳、共働き、4人家族。子どもは小学5年生の長女と小学2年生の次男。週末にまとめた買いをすることが多い。

行動・思考パターン

買い物時間が限られており、献立に使いやすい野菜や安い野菜を優先して選んでいる。売場に地産地消の表示があっても、立ち止まって比べる余裕がなく、気づけばいつもの選び方で買い物を続けている。

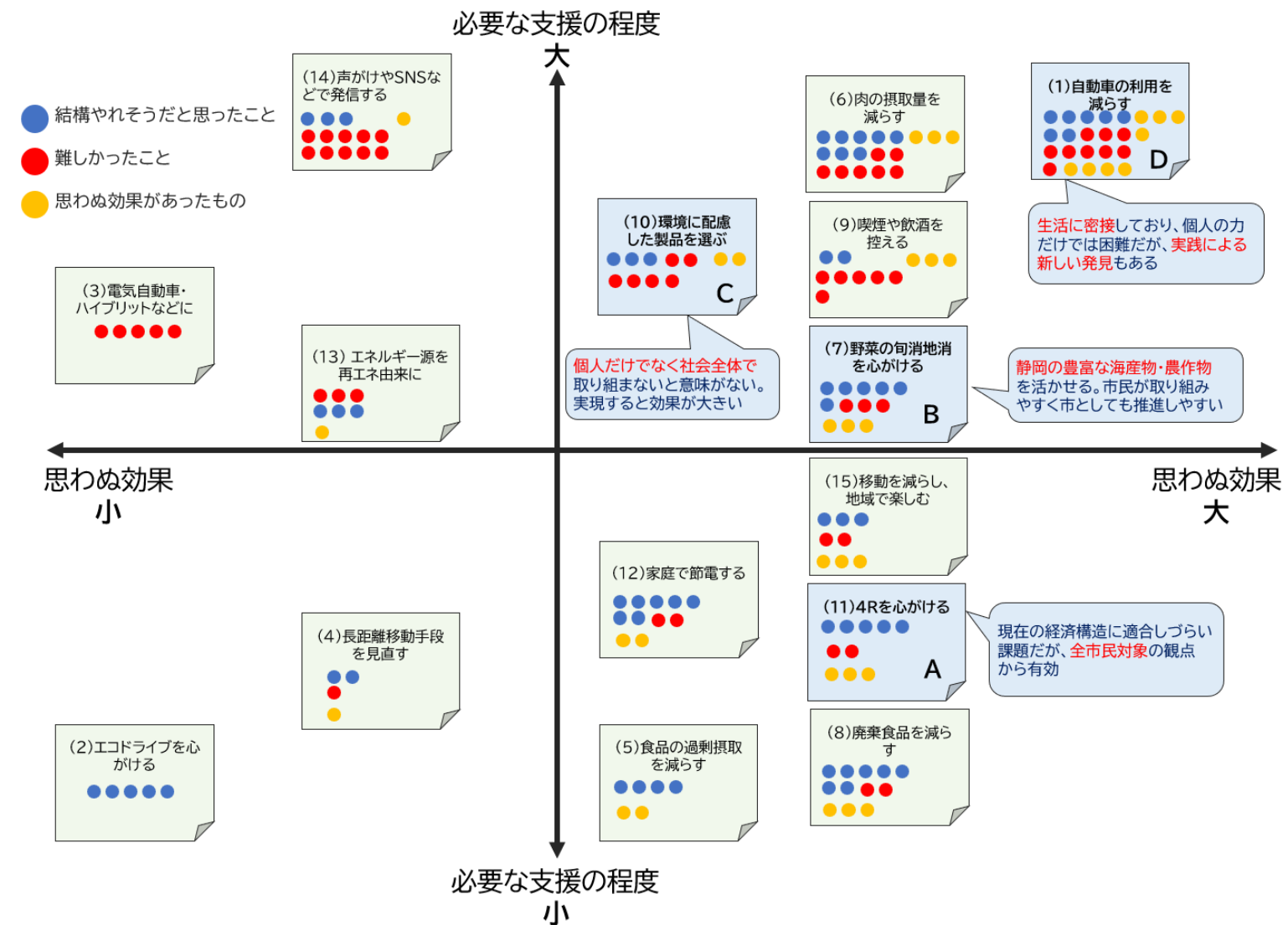
心の声

地元のものを選びたい気持ちは本音にある。でも週末の買い物は時間との戦いで、立ち止まって考える余裕がない。もっとバツと判断できる工夫がほしい。



家庭実験

- 自動車の利用を減らす(車を使う移動を減らす)
- エコドライブを心がける※
- 電気自動車・ハイブリッド車などに乗り換える※
- 長距離移動手段を見直す
- 食品の過剰摂取を減らす
- 肉の摂取量を減らす
- 野菜の旬消地消を心がける
- 廃棄食品を減らす
- 喫煙や飲酒を控える
- 環境に配慮した製品を選ぶ
- リデュース、リユース、リペア、リサイクルを心がける
- 家庭で節電する
- 家庭のエネルギー源を再エネ由来のものに替える※
- 声かけやSNSなどで発信する
- 移動そのものを減らし、地域で楽しむ



第3回 壁を乗り越えるための提言づくり

第3回目 壁を乗り越えるための提言づくり

取組みを後押しするアイデアや支援の検討

第2回で各グループが検討したオプションに対して、取り組む際の後押しとなるアイデアや支援を検討しました。「ここを突破しないと第一歩が踏み出せない」「取組みが全体に広がっていかない」という壁を見つけ、後押しする4つの主体(市民・行政・事業者・協働)と3つの視点(能力・機会・動機)で壁を整理しました。

3つの視点

能力：それをやるための知識・スキル・体力があること

機会：それをやるための場所・時間・周りの環境が整っていること

動機：それを「やろう」「やりたい」と思う気持ちのこと

静岡市から全国へ伝えたいこと

自然、食べ物、歴史、ひと、長く使えるもの、思い...ずっと大切にしたいもの、たくさん!!

海、街、森林の楽しめる町。日照時間が長く環境にやさしい生活が送れます

静岡の冬は南国です。雪の積もらない冬、体験してみませんか?

街×自然 バランス良く 移住でも旅行でも オススメ

すごしやすい静岡で 四季折々の レジャーを

自然豊かで安定した 気候。とても過ごしやすい静岡であなたもスローライフを

静岡で老後暮らしませんか。寒さが苦手な人にはとくにオススメ。雪が積もりません

自然が豊富で1年中過ごしやすい町です。海、山、川などいろいろなアウトドア体験を

自然と気候とひと すべてが豊かな静岡で環境について考えてみませんか?

「未来のだれかの幸福のため」皆がんばります!

少し疲れたら、静岡でおだやかな心の交流を。そして、あなたの街にもやさしさのお裾分けを

長沼からの富士山が絶景 静岡は山、海などの自然体験ができて、水がおいしい

静岡のおいしい魚 もっと食べよう!!

駿河湾の恵み。シラス食べに来て!

みかんもお茶もおいしく、気候は温暖。家康様も住んでいました

静岡蒸留所 ガンブラ工場 見学しませんか

「あたたか」「のんびり」「ゆたかで」「おいしい」。そんな生活をあなたに

チャリで港へ、お魚食べて、山を歩いて、お茶飲んで、ついでに誰かにこの幸せ伝えて!

海と山、お茶にみかんに、美味しい魚。静岡市には、毎日を少し豊かにするもの、ずっと大切にしたいものがそろっています。未来にやさしい暮らしを、ここから一緒に。

新幹線ですぐ来れる気候も人も暖かい、未来にやさしい静岡市

東京、名古屋に近く、レジャーも楽しい。物価も安くて、買いものも楽しい

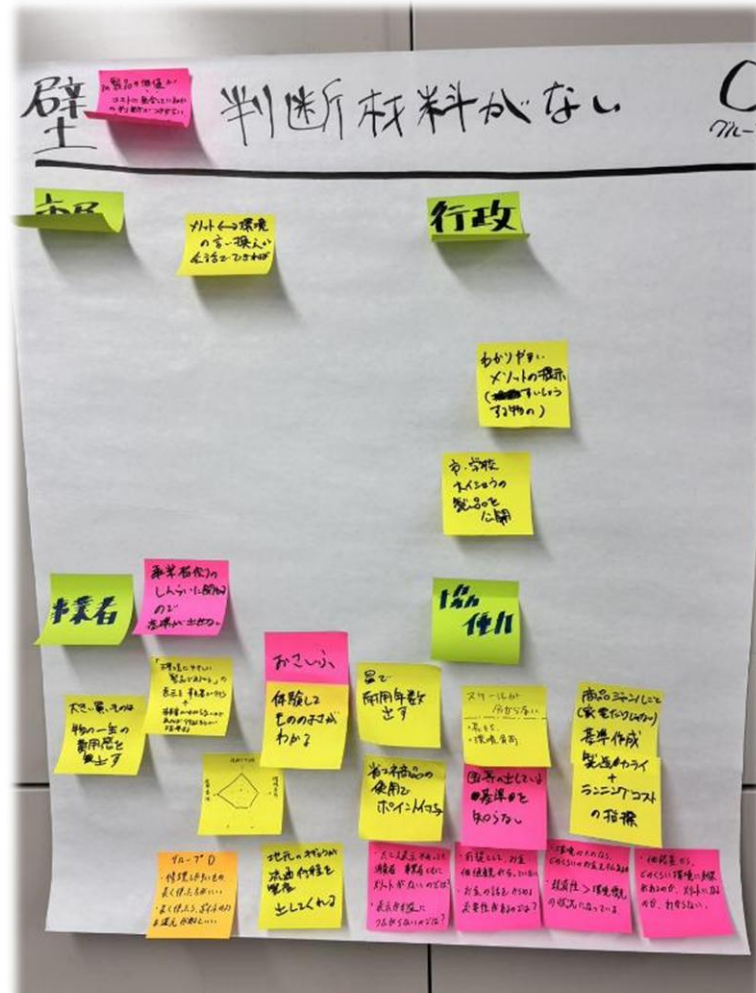
A：4Rを心がける



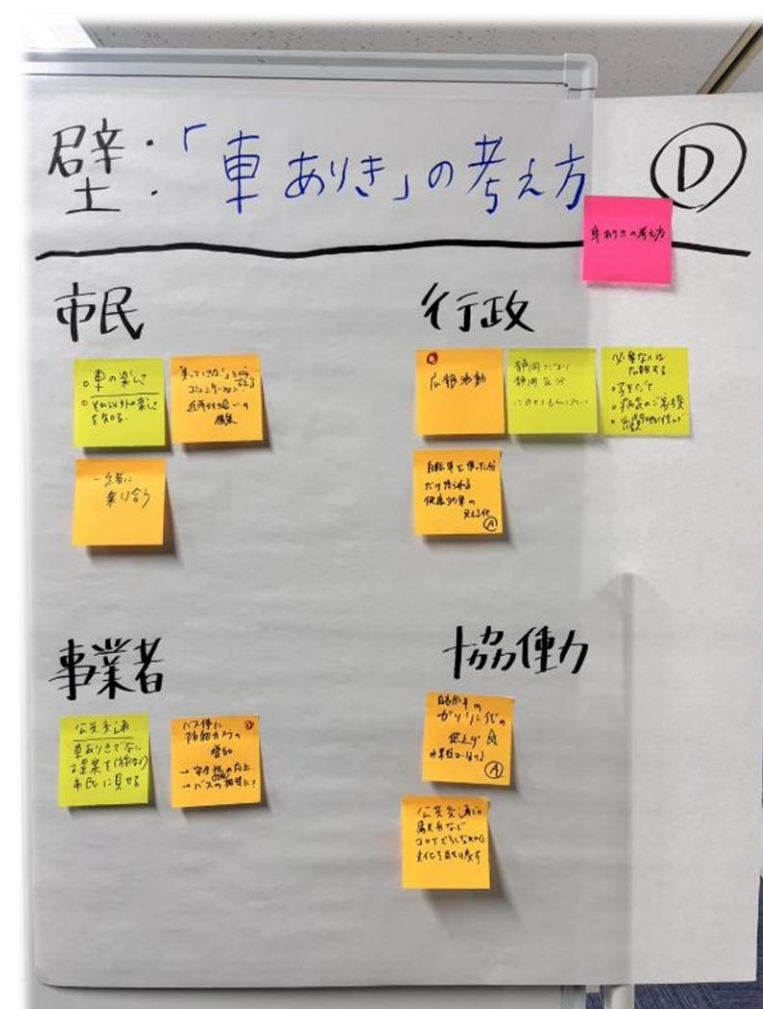
B：野菜の旬消地消を心がける



C：環境に配慮した製品を選ぶ



D：自動車の利用を減らす



しずおか気候市民会議の概要

しずおか気候市民会議の目的・体制

1. 目的

「食」、「住居」、「移動」といった生活に関わるさまざまな場面において、気候変動対策の実効性や持続性を妨げたり、促進する要因を生活に根ざした視点から深く検討し、静岡市や事業者、市民など幅広い関係者に対して問題提起・提言を行うこと

2. 実行体制

主催：「しずおか気候市民会議」実行委員会

メンバー：工藤 拓毅(一般財団法人日本エネルギー経済研究所)

浅川 賢司(公益財団法人地球環境戦略研究機関)

中井 俊裕(株式会社中井俊裕カーボンニュートラル・ラボ)

中村 博子(一般財団法人地球・人間環境フォーラム)

田原 敬一郎(公益財団法人未来工学研究所)

三上 直之(名古屋大学)*

竹内 彩乃(東邦大学)*

尾内 隆之(流通経済大学)*

*プロセスや内容について第三者の立場で参加、助言や評価を行うアドバイザーとして参加

事務局：一般財団法人日本エネルギー経済研究所

ファシリテーター：篠田 さやか(オフィス・キュア)、ほか

後援：静岡市、静岡大学サステナビリティセンター

参加者の選定方法

選挙人名簿をもとに、静岡市の「縮図」（年齢、性別、居住地域。18歳以上）を作成

- ・ 送付数：5000人
- ・ 「環境・気候変動問題に対する政治意識」に関するアンケート調査として郵送（回答はインターネット）

調査実施期間：2026年1月26日（月）～2月6日（金）

参加者：30名（68名の申込）

- ・ アンケート回答者のうち、全日程参加可能な方
- ・ 応募者多数の場合は、年齢、性別、居住地域のバランスを考慮した上で選定
- ・ 謝礼として、QUOカード1万円分を贈呈（全日程参加者には合わせて記念品を贈呈）
- ・ 結果として、第1回19名、第2回19名、第3回20名が参加



私たちがしずおか気候市民会議に参加し、提言を考えました

しずおか気候市民会議の流れと提言ができるまで

4/4

第1回 学習

気候変動問題とはどのようなものか、現在どのような対策が行われているのかなどについて専門家から話題提供したあと、個人としてどのような取組ができるのかをゲーム形式の対話を通じて考えました。

家庭実験

第2回での検討に活用するために、ご家庭でできる取組を試しました。

4/25

第2回 問題分析

家庭実験の結果を持ち寄り、難しかったことや思わぬ効果を話し合いました。
お住まいの地域の特性やご家庭の事情、生活文化、大切にしたい価値観などを踏まえ、対策を行っていく上での課題と解決の方向性を探りました。

5/23

第3回 問題提起

第2回の結果を踏まえ、国や市、事業者、他の市民といった関係各所に対しての提言・メッセージをとりまとめました。

提言とりまとめ

オンラインでの意見募集（15名からご意見）、参加者代表（5名）との打ち合わせを踏まえ、提言の最終とりまとめ